



No. sma0047

(2020.7.2)

サントリー美術館  
リニューアル・オープン記念展 II  
「日本美術の裏の裏」開催

会期：2020年9月30日（水）～11月29日（日）



青楓瀑布図 円山応挙 一幅

江戸時代 天明7年（1787） サントリー美術館

サントリー美術館（東京・六本木／館長：鳥井信吾）は、2020年9月30日（水）から11月29日（日）まで、リニューアル・オープン記念展 II 「日本美術の裏の裏」を開催いたします。

日本人にとって「美」は、生活を彩るものです。室内装飾をはじめ、身のまわりのあらゆる調度品を、美意識の表現の場としてきました。そのような「生活の中の美」を、ひとりでも多くの方に<sup>たの</sup>愉しんでいただきたい。それが、1961年の開館以来変わることのない、サントリー美術館の基本理念です。

一方で、美を生み出してきた日本人の「生活」そのものは大きく変化しています。障子や畳、床の間が住まいから姿を消し、古文も外国語のように感じられる今、古美術をどう<sup>たの</sup>愉しんだらよいか悩める方も少なくないでしょう。

そこで本展では、生活の中の美の“<sup>たの</sup>愉しみ方”に焦点をあて、個性<sup>ゆた</sup>かな收藏品の中から、日本ならではの美意識に根ざした作品をご紹介します。<sup>いにしえ</sup>古の人々の

愉しみ方を知り、追体験することは、現代人にとって知られざる裏ワザ鑑賞と言えるかもしれません。

「裏」には、見えない部分だけでなく、奥深く、隠された内部という意味があります。日本美術をより深く愉しめるように、教科書では教えてくれない面白さの一端をご案内します。目に見えていない（＝裏）ところにこそ、魅力が隠れている（＝裏）かもしれません。

## 《 展示構成 》

### 第1章： 空間をつくる



重要文化財 四季花鳥図屏風 伝 土佐広周  
六曲一双 室町時代 15世紀

江戸時代の絵師・円山応挙が描いた「青楓瀑布図」を前にしたとき、皆さんはどのような感想を抱くでしょうか。「写実的だ」「爽やかな色彩だ」と、何がどう描かれているかを鑑賞し語り合うことが多いかもしれません。しかし、この絵をどこに飾ると素敵か、そこがどのような空間になるかと想像を広げるのも、古来培われてきた美術鑑賞のひとつです。

また、襖ふすまや屏風などの大画面に風景を描くときには、しばしば春夏秋冬がすべて盛り込まれます。四季が同時に存在するなど、現実にはあり得ない世界です。しかしそれは、時間も空間も超越したパラダイスの表現でもありました。つまり屏風は、部屋に飾るだけで、異空間を出現させることができる装置でもあるのです。

本章では、日本絵画がつくり出す、元祖「仮想現実」の世界へご案内します。

【主な出品作品】 以下、すべてサントリー美術館蔵

- ・青楓瀑布図 円山応挙 一幅 江戸時代 天明7年（1787）
- ・重要文化財 四季花鳥図屏風しきかちょうずびょうぶ 伝 土佐広周 六曲一双 室町時代 15世紀
- ・武蔵野図屏風むさしのずびょうぶ 六曲一双 江戸時代 17世紀

## 第2章： 小をめぐる



雛道具 一式 江戸時代 19世紀



七種盃 仁阿弥道八 七口  
江戸時代 天保9年(1838)

平安時代の作家・清少納言が著した『枕草子』には、「なにもなにも、ちひさきものはみなうつくし」という有名な一節があります。つまり、私たち日本人は「小さいものは無条件にカワイイ♡」という感覚を、古くから持ち続けているのです。

たとえば江戸時代後期、上野の不忍池近くにあった七澤屋<sup>ななさわや</sup>は、ミニチュアサイズの雛道具を得意とした人形店で、大名や裕福な町人の間で人気を博しました。文房具や飲食器、化粧道具などの調度品は、写真だけでは一見ミニチュアとわからないほど精巧に作られています。

本章では、思わず手のひらで愛でたくなるような、さまざまなジャンルのミニチュアを取り上げます。標準サイズの作品とも比較しながらお楽しみください。

### 【主な出品作品】

- ・<sup>ひなどうぐ</sup>雛道具 一式 江戸時代 19世紀
- ・<sup>しちしゆはい</sup>七種盃 仁阿弥道八 七口 江戸時代 天保9年(1838)
- ・<sup>しんくろうどものがたりえまき</sup>新蔵人物語 絵巻 一巻 室町時代 16世紀

## 第3章： 心でえがく



かるかや 二帖 室町時代 16世紀



おようのあま絵巻 二巻 室町時代 16世紀

日本にはウマイ・ヘタを超越した、愛すべき作風の絵が数多く残っています。本物そっくりに描くことだけが評価の基準ではなかったこと、そして何百年も前から、無邪気な絵の価値を認め、大切に伝えようとした人々の存在があったことを物語っています。

なかでも、当館所蔵の「かるかや」は、一度見たら忘れられない、ジワジワと心を奪われる逸品です。技法とは無縁でありながら迷いのない筆の走りからは、まるで、描き手の生き生きとした心の動きが伝わってくるようです。こうした自由な表現は、リアリズムとは対極にあるからこそ、ファンタジーの世界を想像豊かに表すことができたとも言えるでしょう。

本章では、室町時代のお伽草子とぎぞうし絵巻を中心に、「絵心」あふれる物語絵の魅力をご紹介します。

### 【主な出品作品】

- ・かるかや 二帖 室町時代 16世紀
- ・鼠草子ねずみのそうし絵巻 五巻 室町～桃山時代 16世紀
- ・おようのあまえまき絵巻 二巻 室町時代 16世紀

## 第4章： 景色をさがす



旅枕花入 信楽 一口  
室町時代 16世紀



壺 銘野分 信楽 一口  
室町時代 15世紀

やきものには、焼く際に炎が偶然つくり出す多彩な表情があります。それが「景色」です。素地きじの変色や焦げ、しずくのように流れ落ちる釉ゆうなどが生み出す景色は、見る方向や角度によって、作品に全く異なる印象を与えます。どの景色がお気に入りか、自分にとっての正面を考えることが、鑑賞ポイントのひとつでもありました。

たとえば、当館所蔵の「旅枕花入たびまくらはないれ」では、壁や柱に掛けるための穴の跡がいくつか残っており、歴代の所有者が自分好みの正面を見定めてきた歴史がうかがえます。

本章では、そうした自分だけの景色を探し出す体験をお楽しみください。作品を360度めぐることによって、「そんな顔もあるんだね」ときっと驚きがあることでしょう。

【主な出品作品】

- ・旅枕花入 信楽 一口 室町時代 16世紀
- ・壺銘野分つぼめいのわき 信楽 一口 室町時代 15世紀
- ・色絵鶴香合いろえつるこうごう 野々村仁清 一合 江戸時代 17世紀

第5章： 和歌でわかる



色絵桜楓文透鉢 仁阿弥道八 一口  
江戸時代 19世紀



白綸子地橘亀甲文字模様小袖 一領  
江戸時代 18世紀

「生き物はみんなみんな歌を詠むよ」とは『古今和歌集』の序文の言葉です。かつての日本人は、動物でさえ和歌を詠むと考え、ラップのように和歌でバトルを繰り広げるなど、生活のいたるところに和歌があふれていました。

このように身近な存在だった和歌の世界は、美術作品を生み出すイメージソースでもありました。文字と絵が一体化した美しさや、工芸の斬新なデザインなどは、多くの人々が和歌の知識を共有していたからこそ楽しめたのです。

一方、和歌とは縁遠くなってしまった現代では、日本美術を見てもピンとこないことも多いでしょう。そこで本章では、和歌がわかればもっと楽しくなる作品の数々をご紹介します。

【主な出品作品】

- ・色絵桜楓文透鉢いろえおうふうもんすかしぼち 仁阿弥道八 一口 江戸時代 19世紀
- ・重要文化財 佐竹本・三十六歌仙絵きたけほん さんじゅうろっかせんえ みなもとのしたごう 源 順  
伝 藤原信実 画・伝 後京極良経 書 一幅 鎌倉時代 13世紀
- ・白綸子地橘亀甲文字模様小袖しろりんずじたちばなまきつこうもじもようこそで 一領 江戸時代 18世紀

## 第6章： 風景にはいる



青緑山水画帖 池大雅 一帖  
江戸時代 宝暦13年(1763)



東海道五十三次(隸書版) 歌川広重 五十五枚のうち  
江戸時代 弘化4年~嘉永5年(1847~1852)

風景画の楽しみ方は、フレームで切り取られた風景を、客観的に鑑賞するだけではありません。画面に近づくと、しばしば山道や小舟の上に、点のように小さく描かれた人物の姿を見つけることができます。

たとえば、江戸時代の絵師・池大雅による「<sup>せいろくさんすいがじょう</sup>青緑山水画帖」のうち、「<sup>でんかとうげんず</sup>田家桃源図」は桃の花咲くのどかな山村を表した作品です。A4サイズ程の小さな画面に、1センチに満たない人物が7人もうごめいています。それぞれの視線や会話を思い描くことで、私たちはおのずと、絵のなかに足を踏み入れることになるのです。

本章では、こうした風景画の「<sup>てんけいじんぶつ</sup>点景人物」を案内人として、風景を内側から眺めてみます。彼らの心の動きを自由に想像しながら、絵のなかの物語を自分自身で生み出してゆく楽しさをご堪能ください。

### 【主な出品作品】

- ・青緑山水画帖 池大雅 一帖 江戸時代 宝暦13年(1763)
- ・<sup>てきせいろうず</sup>摘星楼図 雪舟等楊 一幅 室町時代 15世紀
- ・<sup>とうかいどう ごじゅうさんつぎ れいしょばん</sup>東海道五十三次(隸書版) 歌川広重 五十五枚のうち  
江戸時代 弘化4年~嘉永5年(1847~1852)

---

### 【本展における展覧会関連プログラム】

#### ◎展覧会の裏の裏！？映像公開

展覧会の裏側の<sup>(秘)</sup>映像を当館ウェブサイト上で公開します。裏側のみならず、さらに踏み込んだ裏の裏まで！？どうぞお楽しみに。

※詳細はウェブサイトでご案内します

## リニューアル・オープン記念展 II 「日本美術の裏の裏」開催

- ▼会 期：2020年9月30日（水）～11月29日（日）  
※作品保護のため、会期中展示替を行います。  
※会期は変更の場合があります。最新情報は当館ウェブサイトでご確認ください。
- ▼主 催：サントリー美術館、朝日新聞社
- ▼協 賛：三井不動産、三井住友海上火災保険、サントリーホールディングス
- ▼会 場：サントリー美術館  
東京都港区赤坂9-7-4 東京ミッドタウン ガレリア3階  
〈最寄り駅〉 都営地下鉄大江戸線六本木駅出口8より直結  
東京メトロ日比谷線六本木駅より地下通路にて直結  
東京メトロ千代田線乃木坂駅出口3より徒歩約3分

### 【基本情報】

- ▼開館時間：10時～18時  
※金・土および11月2日（月）、22日（日）は20時まで開館  
※いずれも入館は閉館の30分前まで
- ▼休 館 日：火曜日（ただし11月3日、24日は18時まで開館）  
※shop×cafeは会期中無休
- ▼入 館 料：  
・当 日 券：一般1,500円、大学・高校生1,000円、中学生以下無料  
・前 売 券：一般1,300円、大学・高校生800円  
※サントリー美術館受付、サントリー美術館公式オンラインチケット、ローソン  
チケット、セブンチケットにて取扱  
※前売券の販売は展覧会開幕前日まで  
※サントリー美術館受付での販売は開館日のみ
- ▼割 引：  
・あ と ろ 割：国立新美術館、森美術館の企画展チケット提示で100円割引  
※割引適用は一種類まで（他の割引との併用不可）

▼呈茶席（お抹茶と季節のお菓子）

日 時：10月1日（木）・15日（木）・29日（木）、11月12日（木）・  
26日（木）

11時30分～17時30分（入室は17時まで）

13時、14時、15時にはお点前があります。

会 場：6階茶室「玄鳥庵」 定員：1日限定50名（当日先着順）

呈茶券：1,000円（別途要入館料）

※呈茶券は当日10時より3階受付にて販売（予約不可、お一人様2枚まで）

※変更・中止の場合があります。詳細および最新情報はウェブサイトをご覧ください。

▼一般お問い合わせ：03-3479-8600

▼美術館ウェブサイト：<http://suntory.jp/SMA/>

▽プレスからのお問い合わせ：〔学芸〕上野、柴橋、久保〔広報〕吉岡

TEL：03-3479-8604 FAX：03-3479-8644

メールでのお問い合わせ、及びプレス用画像ダウンロードのお申し込み：

2020年7月2日（木）から：[https://www.suntory.co.jp/sma/info\\_press/](https://www.suntory.co.jp/sma/info_press/)

以 上